

マーサメリー通信

January 2019 Vol.17

発行:マーサメリー 編集人 安武真佐子 URL masmary.com

後藤勇一郎 私季らいぶ@1111 #8 『QUARTVIO』

2019年6月1日(土) at November Eleventh 1111

時は巡って～20 数年後の再会

そして誠実な音、変わらず

20年以上前の武道館でのライブ・イベント。そこで私は後藤勇一郎さんとお会いしました。ダイナミックで繊細。120%完璧な音に感銘を受けたことを覚えています。その後も後藤さんのご活動をニュースレターで拝見しているうちに、赤坂 November Eleventh にお声がけをさせて頂く機会に恵まれました。まさに「時は巡る。」実感しています。再びのご縁をいただくまでの20数年間、後藤さんはソリスト、室内楽奏者、東京ポップスオーケストラのコンサートマスターとして国連総会議場やカーネギーホールでの演奏活動など幅広く活動。ご自身のバンド”The Dynamites”のライブ、ホール演奏の他、J-POPアーティストからの信頼は厚く、楽曲アレンジ、ツアー参加などでご活躍をされてきています。

現在は、後藤さんのライフワークとして季節を音で表現する「私季サウンド」を提唱。今迄に3枚のアルバムを発表されました。ここ赤坂では「私季らいぶ@1111」を定期的に行ないます。次回6月1日のライブについては次ページのインタビューで語ってくださっています。

私季らいぶ@1111 #8 詳細はチラシ、もしくは Web をご覧下さい。 gotsu.net



会場:ノヴェンバー イレブンス 港区赤坂 3-17-8 都ビル 2F

一ツ木通りに唯一あるアーチを目指していらして下さい。

- 千代田線赤坂駅 1 番出口 ● 丸ノ内線・銀座線 赤坂見附駅 10 番出口
- アーチのすぐそばに「ホテル VISTA」ができました。会場となるお店はその目の前！
- ラーメン屋さんの横の奥まった階段を上った2階。一ツ木通りに面しています。会場 TEL: 03-3588-8104



私季らいぶランチセット。実際はもっとボリュームありますよ！数量限定！¥1300+tax

MM: November Eleventh での後藤さんライブ、早くも8回目ですね！前回の3月9日はソロで「Alone」！本当にたったお一人でのソロ・コンサートでした。まずは「Alone」のご感想から！

G:この「Alone」という企画には賛否両論があるかと想像します。例えばショーという観点で考えると、お客様はカラオケではなく共演者がステージに立って演奏する事を望まれるかもしれませんが、逆にカラオケじゃないと出来ない事、例えばこのノヴェンバー・イレブンスのステージの大きさでは再現できない、リズムトラックや大掛かりな編成での音楽も奏でる事が可能です。また楽曲にはそれぞれに似合う楽器編成があり、それは無伴奏ヴァイオリンソロであったり、ピアノとのデュオであったり、4リズムであったり、オーケストラサウンドであったり等様々で、逆にこの「Alone」ならその全てが一度に再現出来ます。

また演奏家目線からすると、共演者の支えがない事に一抹の寂しさはあれど、作編曲家目線からすると、全ての楽曲が間違いのない完璧な形で表現出来るので、ここだけの話(と言ってもこのように広報をすればここだけにとどまりませんが(笑))一番自分自身の私季音を表現出来ていると自負しています。

MM:聖歌コーナーも定着してきましたね(^)

G:これもマーサさんのアイデアのおかげです！それこそそのまま行けば次回作のCDは「私季 IV~chant~」も可能かと(笑)という具合に季節や時節に応じたマーサさんの選曲と、様々な編成による様々なスタイルによる私の編曲により、新たなアプローチで聖歌のメロディが表現できているのではないかと思います。せっかくなのでマーサさんの企画でいつか教会で全曲演奏しましょう！

MM: 次回の「QUARTVIO」も Saturday Afternoon Concert。やヴァイオラやチェロ奏者がおらず、4名ともヴァイオリニストでの演奏に惹かれます。この編成を思いついたきっかけはなんでしょうか？

G:ヴァイオラとチェロを交えた通常の弦楽四重奏というのは、それが定番であるが故に音域は勿論の事、同じ弦楽器群でありながら明らかに違う音色による、幅をもたせたハーモニーが奏でられるなど良く考えられています。しかしながら逆に逆の視点で考えると、明らかに違う音色により良くも悪くも純粹でないハーモニーや音色の不融合が奏でられている部分もあります。

奏者の違いによる音色の違いは少なくありませんが、同じ方向性で奏でるヴァイオリンだけで四声帯を組む事により、低音が少なくサウンドがアップパーになるのは否めませんが、純粹な響きと、低音楽器には無い取り回しのスピーディーさ、レスポンスの早さによりスリリングでスキルの高いアンサンブルになります。何より音域等制限の多いアレンジ面で難易度が大幅にアップする事が、自身の作編曲家魂をくすぐります(笑)

MM:アンサンブル用の編曲で気をつけていることはなんでしょうか。

G:正直あまりありません。勿論出ない音域を使わないのは当たり前ですが(笑)スタジオレコーディングの現場では、時々そういう事があるもので(苦笑)ただこの弦楽四重奏とヴァイオリンカルテットという観点から言うと、ヴァイオラやチェロのスキル面であまり難易度が高くならないように気をつける事はあっても、ヴァイオリンはそこをあまり気にしなくていいので、ある意味自由度があるのも事実です。



開演前に楽屋にて優しい笑顔。オーナーの写真(バック)と共に。

MM:見所は？

G:やはりヴァイオリンという楽器を奏でる際に目を引く演奏フォーム、それが四人それぞれ違っていたり、はたまたある瞬間ピタッと同じ形になったり、普通の弦楽四重奏では味わえない圧巻のシーンがご覧いただけるかと思えます。問題はノヴェンバー・イレブンスのどこでステージングを繰り広げるかですが(笑)

MM:では、聴きどころは？

G:前回は完全一人ライブだったので、ご来場いただいた皆様は再度お越しいただければそれとの比較を、そしてこのQUARTVIO だけで考えると、やはり低音が出ないヴァイオリンでどこまで幅広いハーモニーが奏でられるか、それは私の編曲能力とメンバー四人の個々の技量とアンサンブル能力にかかってくるわけですが、今回はプログラムの耳馴染みな曲が中心になるので、その分それらの曲がどう料理されているかを感じ取っていただけたら嬉しく思います。

MM:皆様へのメッセージを！

G:ノヴェンバー・イレブンスだからこそ出来る事、それはPAを駆使した「Alone」のスタイルだったり、今回のヴァイオリンカルテットであったり、また近い内出来たら考えている、エレクトリックではありますがピアノとのデュオだったり…ここだからこそ出来る、そして美味しいお料理と共に気軽に楽しめる時間を続けてきているつもりです。ライフワークとして続けていけたらと願う中、それは皆様のご支援も必要となります。是非お時間をお作り頂き足をお運びください！

音楽は時に人に力を与え、心を弾ませ、時に癒すパワーを持っています。そんな豊かな時間を作りたくて、November Eleventh で企画・ブッキングのお手伝いをさせて頂いています。オーナーはミュージシャン・作曲家の宇崎竜童、作詞家の阿木燿子夫妻。ランチタイムはドリンクのみでも OK。お気軽にどうぞいらしてください。

(有)マーサメリー Masako Yasutake
info@masmary.com masmary.com

Special Thanks to アイタック税理士法人